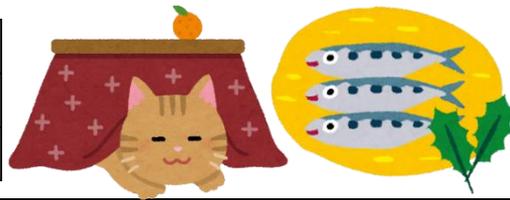


トピックス
1. 播州日誌「ご来光」
2. 社労士への道 最終回「未来を拓く」



福留経営労務管理事務所  
 姫路龍馬会  
 社会保険労務士・行政書士  
 福留章

<h1>龍馬通信</h1>	No. 50
	2022年2月号

## 如月の候 春の気配

光陰矢の如し。年末年始も瞬時のごとく過ぎて、早や2月。最も厳しい季節の中で秘かに春の訪れを待つ。逆境が人を強くするとは言うが、今の季節、心が凍てつき行動が鈍り、思考が曇る。

冬といえば、世界的に有名になった「おしん」のあの場面。厳冬の川で洗濯するおしんの小さな手は真っ赤になってそれを口元でふうふうとかすかな息のぬくもりで温める。「おら、泣かねえ。」「おら、絶対泣かねえ。」そんなセリフがあったかどうか。思い出すたびに目頭が熱くなる。苦しみや悲しみを癒すのは時の流れしかないのかもしれない。すべての人に必ずある心の痛みも時間の経過とともに薄れ、忘れてしまうものかもしれません。



2月3日は節分、そして4日は立春。冬来りなば、春遠からじ。

永い人生を経ても山あり谷ありの人生模様は続く。「立春」という言葉の中に漂うかすかな春の気配。その気配を感じて次なる季節を待つことにしよう。やがて来る自分の未来を信じて。

立春 2月4日 雨水 2月19日

## 播州日誌

### 「ご来光」



光の帯、天空に昇る。ご来光に偶然重なった大気光学現象。科学的な現象とはいえ、私には神々しく近寄り難い神秘的なものに思えた。日の出の数分前、光の帯は力強く上昇する。少し間をおいて黄金色にまぶしく輝く太陽が少しずつその姿を現す。東雲の空を真っ赤に染めて吉兆を暗示するかのような荘厳さに言葉もなく体を震わせながらその光景をみつめていた。人は美しすぎるものを見た時、感動し、心を震わせ涙する。体の芯から沸きあがってくる喜びがやがて力と変化するのを確信した。元日の朝、7時15分過ぎ、屋上にて東の空にご来

光を仰ぐ。コロナ禍にあえぐ人類。世界ではついに感染者が3億人を超えた。日本でも新型株（オミクロン）による感染がじわりと拡大に向かい、第6波の到来が確実といわれる中、新年を迎えた。私にとって今年は新しい事業への挑戦の年になる。その年頭にサンピラーに遭遇できたことは何よりだった。その光景を静かに深く胸に刻み込んで未来を拓く力にしたいと思う。

2022. 1. 1

◎サンピラー（太陽柱）現象

日の出または日没後、地平線に対して垂直方向へ太陽から炎のような形の光芒こうぼうが見られる大気光学現象。目撃した者に幸運が訪れるとの言い伝えがある。

## 「私の1.17」

あれから27年の年月が流れた。1995年（平成7年）1月17日、午前5時46分。時計の針はそこで止まった。人的被害死者6,434名。不明3名。倒壊家屋、63万9,686棟（一部損壊含む）。未曾有の被害をもたらした阪神淡路大震災。突如襲われた被災地はつきあげられ、揺りまわされ、大自然のなすがままとなり未明の空を赤く焦がした。コロナ禍にあえぐ日本。被災地は、鎮魂の灯に彩られ、追悼の祈り、ため息、すすり泣き、涙で溢れた。被災者の遺族、友人、知人らは亡き人の面影をしのびつつ、27年の歳月を回顧する。時間が止まったままの人もたくさんいた。当時、私は姫路市飾磨区に住んでいた。同時刻突然の大きな揺れ、ゆっさゆっさと言った横揺れを感じ、目が覚めた。数分間の揺れ。私は隣のベッドの妻の手を握り「落ちていて、大丈夫だから。」と声をかけた。リビングの飾り棚から数本の洋酒が飛び出し素焼きの壺輪（人形）も床に落ちて首が折れた。その程度の被害であった。NHKは神戸放送局前の歩道に毛布にくるまって座り込んでいる数人の姿を映し、多数の被害が出た模様というテロップが流れていた。それからの3日間、私はテレビの中継に釘付けになってしまった。悪魔のような炎は暗闇を焦がし燃え続ける。私の生まれ故郷である神戸市長田区の被害は大きく、小さい頃よく遊んでいた大正市場は跡形もなく焦土と化した。その頃、私は20年以上勤めた会社を追い出され、傷心の中、一念発起して社労士資格取得を目指して受験勉強中だった。1日8時間の猛勉強。大阪へも週に一度通学していたが、JRの不通で通信教育に変わった。新快速がようやく復旧したのは4月中旬であった。再び通学が始まった。その初日、JR神戸線。姫路を出て明石を過ぎるあたりからブルーシートが目立ち始め、やがて長田、兵庫を通過する頃にはあちこちに震災のつめ跡が残り、乗客たちは手を合わせ、なかには涙する人の姿もあった。まるで空襲の後のようだと思った。新快速とはいえ、徐行運転で大阪まで2時間くらいかかった。8月に受験、11月に合格。平成8年1月1日に開業。それ



から26年。今は高砂市に事務所がある。社労士としては0からの出発。幾多の試練に耐えぬき今日がある。被災地に響き渡った復興の<sup>アキラメ</sup>槌音はそのまま私の人生の支えとなった。神戸市東公園、暗闇の中に「忘」の字が浮かび上がった。そうだ、忘れてはいけない。突如、その後の時間（未来）を永遠に奪われた人の無念を。人の命の尊さを。支え合って生きていくことの喜びを。私を支えてくれた総ての人に深く感謝の気持ちを伝えたい。6千余名のご冥福を祈りながら。

2022. 1. 17

## 「社労士への道」

### 第18回最終回 「未来を拓く」

2022年（令和4年）1月19日、朝7時50分頃出発。播但連絡道路から山陽道。宝塚から新名神に入り、京滋バイパス、再び新名神、甲南インターで降りて一般道を20分程。片道190km伊賀市に今日の目的地であるI産業に到着する。行程2時間20分程。私にとって一番遠方にある顧問先。赤穂市にグループの本社があり、子会社になる。原則月に1回の安全衛生委員会に出席する為出張する。11時からの安全パトロールに間に合うように10時過ぎ到着に合わせて出発する。昼食をはさんで12時45分に安全衛生委員会を開催。今回で第60回5年を数える。冒頭に無事故記録の発表があり、342日連続無事故記録の継続が報告された。まもなく1年間無災害達成の見込み。無災害記録は私にとっても大きな喜びであり、いつもその継続を祈っている。今日の私テーマは「オミクロン感染症の特徴」。世界と日本、そして兵庫と三重の感染状況の報告とオミクロン株について話をする。潜伏期間の短いこと、デルタ株に比較して重症化率、死亡率が低いこと。症状

がほぼインフルエンザに近いこと、デルタ株の症状の1つ、味覚臭覚障害がほとんど見当たらず、咳、あるいは喉の痛みを特徴とすることなど概略を報告。対策としては従来の基本的な予防対策、手洗いうがいアルコール消毒、三密を避けるなど基本の徹底を呼びかける。前月の目標についての報告、次回までの目標の発表、ヒヤリハットの報告（ほとんど見える化ができており、写真によるピフォーアフターを徹底している）その他連絡事項と続く。総括で私から今回の委員会の討議事項について感想を述べる。次回開催日と安全パトロールの予定を確認して終了。約1時間10分ほど。事務的な手続き関係の打ち合わせなどをして14時過ぎには会社を出る。近くのスーパーに寄って新鮮なカツオのブロックなどを買うこともある。帰途は気分的にも緊張感が解けてその行程もなんとなく短く感じる。1日仕事だがやりがいのある仕事だと感じている。

今回の訪問で少し感動したことがある。12月の健康診断で重篤な腎臓障害の所見が出て、即入院となった日本国籍の外国人（フィリピン人）、独身、23歳。傷病手当の相談があり、医師の証明を取って欲しいとお願いした私に事務員のMさんが、

「明日洗濯物を届けるので、その時に依頼してみます。」 「え、洗濯物のお世話をしているのですか？」

「はい、まあ私はこの会社の母親係みたいなものですから。」 「それは大変ですね。」

どうやらもう1ヵ月以上、身寄りのないこの青年の洗濯物のお世話を続けているようだ。さりげない母親代わりの言葉に、こんなにも優しい慈愛に満ちた人がいることに感動した。

**1月21日**、8時30分に事務所を出る。約45分の行程途中、大久保のサービスエリアで時間調整して10時からの安全衛生委員会に備える。リネンサプライ業、Kリネン。今月の開催で219回。足掛け18年になる。現時点の無事故記録は329日。とりあえず1年（365日）を目標にしている。今日のテーマは「5S、3定の展開について」私の方からはオミクロン感染症の概要についてショートスピーチ。先月の目標確認と次回までの目標設定。4つあるフロアごとの安全衛生パトロールの結果をチェック表に基づき発表。設備的に修理が必要な場合はメンテナンスの方へ依頼が出る。いつまでにという期限を切って修理する。「5S3定」整理、整頓、清掃、清潔、しつけ。3定は定品、定量、定位置。いずれの運動も安全と衛生、生産性の向上に直結しており、最終的には会社の利益につながる。1ヵ月の運動の進捗状況と今後の方針が討議される。社長の意向もあり極力ボトムアップを優先させている。安全と衛生面に造けいの深い本部長が就任されてから組織的、計画的な安全と衛生対策が1年単位で進められている。その充実ぶりには目を見張るものがある。「職場の教養」私が毎月贈呈する小冊子（倫理法人会出版月刊）から総務部長が3〜5点ぐらい選んで発表する。私の総括、社長からの指導、伝達があって終了。約1時間だが熱くなって30分ほど延長することもある。会議後、1時間ほど社長と面談をする。それが双方の楽しみになっている。帰途いつも充実した気持ちになるのが嬉しい。



**私たちの業界**でも電子申請が進みデジタル化が促進されると、いわゆる第1号業務、第2号業務はその割合が減少し、第3号業務にシフトしないと事務所経営が成り立たない。第3号業務、いわゆるコンサルタントの部分は実績と経験、専門的知識に裏打ちされていなければならない。今思えば特に安全と衛生と言う部分に特化して、企業の安全配慮義務に基づく指導、教育の分野を勉強してきたこと、そして長年の社労士としての実績が今となって大きく役立っている。安全と衛生にいわゆるゴールはなく、やってもやってもやり切れない部分が残る。重大事故を防止すること、安全と衛生に対する認識が社員に定着し、拡大することを目指して毎月の委員会を進化させていく。その実践が今の私にとって大きな目標、やりがい生きがいになっている。



R4.1.19 三重県伊賀市にて  
安全パトロールの様子

**特定社労士制度**は法を学ぶと言う点では大きな力となったが、職域拡大という点を見れば、ほとんど市場化せず埋没している。私は個別労働紛争が起きないようにするところまでが社労士の仕事であり、紛争が起ってしまえばやはり専門家に解決を求めてもらうべきだと思っている。「社労士への道」遠く険しく厳しいものがある。土業全般に言えることだが、いかにデジタル化に添っていけるかだ。その点は後輩たちの奮起を促したいと思う。

**先日**、足場架設の会社の社長から問い合わせ。

「先生何とか人おりませんか？いくら募集しても全然反応がない。」「人さえいれば仕事あるのに。」という話。私は思わず外国人雇用に舵を切るべきだと話す。「まわりの会社でも外国人がたくさん働いている。」「いったいどうしたら雇用できるのか。」「もう外国人を安い労働力と考える時代は終わっています。」「日本人を雇うより費用がかかります。」「だから労働力の確保と考えてください。」外国人雇用（実習生、研修生）は簡単ではなく周到な準備がいります。最初のオファーから最低でも半年は実際の雇入れまで時間がかかります。顧客先から人手不足の話が頻繁に出るようになってからも久しい。人材不足、労働力不足は確実に切実な労働の問題。専門家たるべき社労士がこの問題を無視することはできない。私は立ち上げた「外国人雇用管理団体」の事業が私にとっては必然的な業務拡大のビジネスモデルと考えている。後発でもあり山積する難問に不安と一種の恐怖を感じないわけではない。しかし踏みとどまっても何も始まらない。私の未来は私の手によってその扉を開かなくてはならない。未来を拓くという壮大な試練に今、私は挑戦しようとしている。夢は果てしなく。日本と東南アジアの国々との架け橋になって誠実に事業を伸ばしていきたいと思う。母国を離れ、異国で働く人々がその在留期間中、病なく、怪我なく、無事にきれいな体で帰国し、家族みんなが幸せな豊かな生活の実現に力を貸したいと思う。社労士になって満25年、26年目を歩み始めた私にとって「社労士への道」はまだまだ続く。人々への愛と感謝の気持ちを忘れず、土業に生きることに誇りと喜びを感じつつ、これからも精進していきたいと思う。「日暮れて道遠し」苦難を恐れずいつも前向きに皆様と共に前へ前へ歩いていきたいと思います。



あとがき

18回、1年6ヶ月にわたって連載して参りました「社労士への道」も今回で最終回となりました。その間、多くの人から励ましのお言葉をかけていただき、本当にありがとうございました。

“人は1人では生きていけない” “支えあってこそ生きていけるのだ”ということを感じます。改めて社労士としての自分を振りかえり、身につまされました。一人ひとりの名前は言いませんが、本当に苦しい時にたくさんの人に助けられ支えられて、生きながらえてきたことを思い、ありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。苦しいことも、悲しいことも、辛いことも、今はよき思い出となりました。こんな社労士もいるんだと言うことを書きたくて始めた「社労士への道」。こんなに長くなる事は想定外でした。いつか自分が歩んだ25年の歴史にけりをつけ、今後の生き方を考えることを夢見ていました。その夢が実現し、私は今、幸せな気持ちでいっぱいです。この喜びを皆様にお伝えして、あとがきにかえ、ご挨拶とさせていただきます。

2022. 1. 21 事務室にて



今月は紙面の都合上、「龍馬と私」を割愛させていただきました。

次回から「南国土佐を後にして」1部神戸編 2部高知編を連載いたします。